



文化薫る中之島と創造性溢れる北加賀屋、初の2会場開催。成功裏に閉幕。

ART OSAKA 史上、過去最高売上を記録。

入場者数：約4,700名 内訳_Galleriesセクション2400名、Expandedセクション2300名（昨年比 2520名）

売上総額：約2億1500万円 2会場合計（昨年比 1億1600万円）



1. Galleriesセクション、賑わいの様子



2. Expandedセクション、小清水漸《表面から表面へ》（YOD Gallery）

記念すべき第20回目となる現代美術のアートフェア「ART OSAKA 2022」を7月6日（水）～11日（月）の日程で開催、成功裏に閉幕致しました。今年は、昨年に引き続き、大阪を代表する文化エリアにある大阪市中央公会堂（国指定重要文化財）＝「Galleriesセクション」と、新たな会場として、アーティストのアトリエなどが集まる北加賀屋エリアにある名村造船所大阪工場跡地-クリエイティブセンター大阪（近代化産業遺産）＝「Expandedセクション」での開催でした。大阪市中央公会堂での「Galleriesセクション」は、今年から特別室も加わり中集会室・小集会室とともに3階ホール全体がART OSAKA一色に染まりました。出展ギャラリー数も54軒に増え、近畿圏・関東・愛知より集結し、端正で風格ある会場の雰囲気にもマッチした、良質で見応えのあるブースフェアになりました。

「拡張された」という意味合いを含め新設された「Expandedセクション」では、造船所跡地であるクリエイティブセンター大阪（以下、CCO）を会場に、大型作品やインスタレーションに特化したフェアを開催しました。大規模な作品群は、国内のアートフェアでは初の類を見ない展開となり、美術館学芸員など、専門家からも高く評価されました。また、クリエイティブなまちづくりで知られる北加賀屋では、千島土地株式会社ご協力のもと、同時期に多数のアートプログラムが開催され、地域全体が賑わいを見せました。

ART OSAKAは、現在進行形のアートフェアの中では最も古い歴史を持ちます。大阪を象徴する特徴的な2会場同時開催やクラウドファンディングなど、20回目にして大きなチャレンジがいくつもありましたが、新興のアートフェアが次々に増えていく中、歴史あるART OSAKAが大型作品に特化したフェアを導入したことで、新たな特色・強みを打ち出せた良い機会となりました。改めまして「ART OSAKA 2022」にご来場くださった皆様、また開催にあたりご支援下さいました関係企業・団体の皆様、クラウドファンディングにご寄付くださった皆様に心より御礼申し上げます。

Galleriesセクション 会場の様子

初出展のギャラリー5軒のうち、MAKI Gallery（東京）は、ニューヨークを拠点に活動するミヤ・アンドウ（1973-）を個展で紹介。一見古来の日本画を想起させながら、熱を加えて色を重ね、研磨した金属の表面に、雲を連想させるようなグラデーションを表出させる、という独自の技巧を用いています。パリやニューヨークなど、世界中に拠点を持つメガギャラリー、PERROTIN（東京ほか）は、フランス出身のJR（1983-）がパンデミック下のパリでルーブル美術館の屋上に行むバレリーナを撮影した作品など、世界的に著名な作家を紹介しました。



3. MAKI Gallery 展示の様子



4. PERROTIN 展示の様子

タグチファインアート（東京）は、ドイツ出身のレギーネ・シューマン（1961-）を個展で紹介。天井およびブース内部全体を黒い壁紙で覆い、ブラック・ライトで効果的に作品の魅力を際立たせ、来場者を魅了しました。



5. タグチファインアート 展示の様子



6. Gallery 38 展示の様子

若手作家をメインとしたブースとしては、Gallery 38（東京）はチリ出身のクリスチャン・プーレイ（1983-）を紹介。風景画とその背景の抽象的な要素のバランスが、ノスタルジーに隠された確固たるアイデンティティを感じさせました。JILL D'ART GALLERY（愛知）は神戸出身の堀川由梨佳（1988-）を紹介。”おっちゃん（Occhan）”と呼ばれる作家独自のキャラクターの巨大な立体作品がブースを飛び出し登場しました。また、MARUEIDO JAPAN（東京）は熊本出身のしまうちみか（1987-）を個展で紹介。不確かさや矛盾を孕みながら描かれるドローイングとそこから発想された立体作品は、日本神話を題材にした天井画や壁画が描かれた特別室で、一際異彩を放っていました。



7. JILL D'ART GALLERY 展示の様子



8. MARUEIDO JAPAN 展示の様子

前述した出展ギャラリーの様子はごく一部ですので、各出展ギャラリーの様子はこちらでもご覧頂ければ幸いです。
<https://360artroom.net/exhibition/527/>（Galleriesセクションのみ）

Expandedセクションの様子

CCOの近代化産業遺産として風情ある広大な敷地を活かし、映像やパフォーマンス、サイトスペシフィックな作品群でダイナミックに展開し、公会堂とは対照的な空間となりました。1970年代から活躍し、国内外での発表や多数の美術館に収蔵されている植松奎二（1947-）、小清水漸（1944-）のベテランから、40代の中堅、1990年代生まれの若手まで、幅広く出展。特に、eitoeikoから出展した硬軟（1992-）は、ビッグフットに扮し、「具体」の白髪一雄を模倣してペインティングを制作するパフォーマンスをおこないました。MORI YU GALLERY から出展した瀧健太郎（1973-）は、電気機器などの複数の廃棄物を解体し、オブジェとして再構成されたものに映像を投影する作品や、モビールに吊るされたカメラから監視カメラのように撮影された映像をライブで投影し、「見る・見られる」関係性を具現化した作品などを展示。また、GALLERY麟から出展した横溝美由紀（1968-）は、CCOで最も特徴ある4階の旧製図室にて、ミニマルなインスタレーションを展開。作品が光を受けて見え方が変化し、黄昏時には黄金に輝くさまを見ることができました。17名の作家によるジャンルを超えた作品によって、本セクションのテーマである「拡張」された展示となりました。会期中は、大阪府立港南造形高校や大阪市立工芸高校、追手門学院大学の学生たちが団体で来場し、公会堂での開催だけではアプローチできなかった地域の次世代の方々に、現代美術に触れる機会を創出することができました。



9. 硬軟《絵を描くビッグフット》(eitoeiko)



10. 加藤智大《anonymous》(TEZUKAYAMA GALLERY)



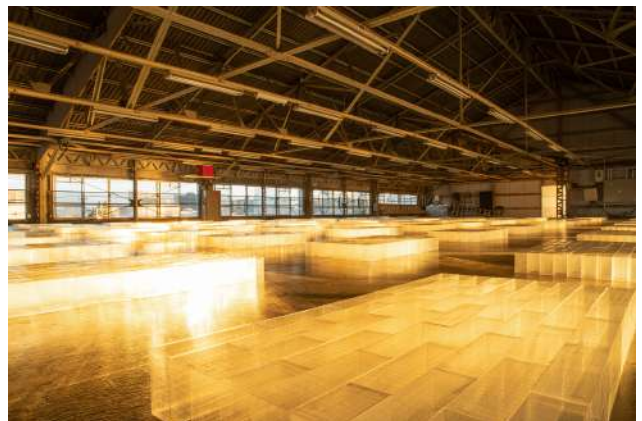
11. 並木久矩《World architect and our steps》(ギャラリーMOS)



12. 瀧健太郎《見ることの闘議》より (MORI YU GALLERY)



13. 作品手前：釜本幸治 × 長谷川政弘《浮標一淡い寄る辺ー/瞑想の庭一蓮ー》より (ノートギャラリー)、作品奥：大西康明《境の石》(アートコートギャラリー)



14. 横溝美由紀《wrapped》より (GALLERY麟) 撮影：山口卓也

関連イベントおよび周辺の文化施設やアートスポットとの連携

Galleriesセクション

クリエイティブアイランド中之島実行委員会の協力を得て、周辺の文化施設4館と連携を図り「相互入場割引」を実施しました。加えて、アートエリアB1での連続企画「ラボカフェ」にて、本フェアのトークを組み込むことができました。

[相互入場割引 連携施設]

国立国際美術館、中之島香雪美術館、大阪市立科学館、graf studio/shop & kitchen

[トークイベント]

テーマ： 企業が取り組む現代アートの活かし方～街づくり編～

日 時： 7月9日（土） 15:00-16:30 会場：アートエリアB1（オンラインライブ配信あり）

ゲストスピーカー： 深井厚志（一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン）

スピーカー： 森 裕一（一般社団法人日本現代美術振興協会）

モデレーター： 木ノ下智恵子（大阪大学21世紀懐徳堂、アートエリアB1）

参加者：現地約15名、オンライン約80名

Expandedセクション

北加賀屋クリエイティブ・ピレッジ構想を手がける千島土地株式会社のご協力のもと、ユニークなアート関連施設や千島土地コレクション展など、6会場4プログラムを同時オープンすることができました。

[同時開催] ※7/8（金）～10（日）

千島土地コレクション「TIDE－潮流が形になるとき－」

メイン会場：kagoo、サテライト会場：千島文化、クリエイティブセンター大阪 屋外

[特別公開]

MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA] / Super Studio Kitakagaya (SSK) 「SSK Art Fair Collaborated with 山中suplex 『の、あとのふね』」 開催 / モリムラ@ミュージアム (M@M) 「第7回展 華氏451の芸術・再考」 開催

[トークイベント]

オンラインメインでのトークイベントでしたが、100名ほどの方（視聴期間1ヶ月通算）にご視聴頂き、若手作家のステイトメントや展望を生の声でお届けすることができました。

イベント名：Expanded カフェトーク

日 時： 7月6日（水） 18:00-19:30

会 場： クリエイティブセンター大阪 2Fカフェスペース

登壇者： 大森記詩（GALLERY KOGURE 出展作家）、硬軟（eitoeiko出展作家）

並木久矩（ギャラリーMOS 出展作家）、前谷開（FINCH ARTS出展作家）

聞き手： 櫻岡聡（FINCH ARTS ディレクター）



15. アートエリアB1でのトークの様子（画像提供：アートエリアB1）



16. Expandedカフェトークの様子

2会場間を直接つなぐ交通手段（シャトルバス、アートクルーズ）の効果

中之島と北加賀屋、地下鉄で行き来するには少し距離のある2会場間を繋ぐシャトルバスは、利便性が高く、多くの来場者にご利用頂くことができました。アートクルーズは、堂島川から木津川を、歴史や建造物、アートにまつわるガイドでゆったりと航行し、水都大阪を満喫いただけるスペシャルな機会となりました。



17. 発着地にはオリジナルの幟を設置して誘導



18. 大阪市中央公会堂北側の若松浜から出航の様子

作品売上について

作品売上は過去最高額となる約2億1500万円（2会場計）に上りました。近年は毎年増加傾向にありましたが、これまでの最高売上だった昨年のART OSAKA 2021（作品売上1億1600万円）に比べて2倍弱となり、大きく増加しました。

Galleriesセクションでは、例年足を運んでくださる個人コレクターのみならず、子連れの30代・40代といった新規顧客といえる若い世代の来場も年々増えています。出展者からも「初来場の方が多かったが、真剣にコレクションを探しておられ良い感触だった」という声がありました。住まいに飾りやすいサイズの作品のみならず、大型作品もたびたび売約されている様子が見受けられました。また、ご協賛企業の方々が、積極的にお客様や他の企業の方々をアテンドくださり、売約につながる例もありました。現代アートがビジネスシーンを超えてコミュニケーションツールとなってきていることがうかがえます。

Expandedセクションにおいては、約1050万円の売上となりました。大型作品やインスタレーションという展示の特性上、鑑賞を楽しまれている方が多くいらっしゃいました。鑑賞の機会を増やすことや新たな客層へのアプローチになり得たのは良い機会でしたが、販売の場であることの認知を広げる工夫が必要だと感じています。

今後に向けて

世界的に「withコロナ」がニューノーマルになりつつあります。まずは3年後、2025年の大阪万博に向けて、ART OSAKAでは「1. 海外ギャラリーとの協業の再開」、「2. 大阪の文化都市観光の魅力あるコンテンツの1つとなること」、「3. 日本、特に関西地域の現代美術の発信の場となること」、この3点を軸に進められればと思っております。他機関の皆様とも一層の連携をはかり、引き続き邁進して参ります。どうぞ今後とも変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ART OSAKA 2022 出展ギャラリー&アーティスト

Galleriesセクション | 54 軒（ABC順表記 *印は初出展）

AaP/roidworksgallery * / AIN SOPH DISPATCH / アートコートギャラリー / 芦屋画廊kyoto / カペイシャス / COHJU contemporary art / Contemporary HEIS / DMOARTS / eitoeiko / FUMA Contemporary Tokyo | BUNKYO ART / ギャラリー宮脇 / Gallery 38 / GALLERY IDF / GALLERY KOGURE / ギャラリーノマル / GALLERY 麟 / Gallery Suchi / GALLERY TOMO / ギャラリー椿 / hpgrp GALLERY TOKYO / イムラアートギャラリー / JILL D'ART GALLERY / KAZE ART PLANNING / KENJI TAKI GALLERY / 小林画廊 / 小出由紀子事務所 / KOKI ARTS / KOUICHI FINE ARTS * / 小山登美夫ギャラリー / LAD GALLERY / MAKI Gallery * / MARUEIDO JAPAN / masayoshi suzuki gallery / メグミオギタギャラリー / MEM / ミヅマアートギャラリー / MISA SHIN GALLERY / MORI YU GALLERY / Nii Fine Arts / ノートギャラリー / NODA CONTEMPORARY / PERROTIN * / s+arts * / サイギャラリー / studio J / SYP GALLERY * / タグチファインアート / TEZUKAYAMA GALLERY / サードギャラリーAya / ときの忘れもの / 万画廊 / YOD Gallery / Yoshiaki Inoue Gallery / +1art

Expandedセクション | 17名アーティストによる14プラン

Artists for Streetsummit -アイトキタザキ, タビー, ジェフ・ジレット- (ギャラリーかわまつ) / 青野セクウォイア (Yoshiaki Inoue Gallery) / 赤井正人 (Gallery OUT of PLACE) / 植松奎二 (ギャラリーノマル) / 大西康明 (アートコートギャラリー) / 大森記詩 (GALLERY KOGURE) / 加藤智大 (TEZUKAYAMA GALLERY) / 釜本幸治, 長谷川政弘 (ノートギャラリー) / 硬軟 (eitoeiko) / 小清水漸 (YOD Gallery) / 瀧健太郎 (MORI YU GALLERY) / 並木久矩 (ギャラリーMOS) / 前谷 開 / (FINCH ARTS) / 横溝美由紀 (GALLERY麟)

主催：一般社団法人日本現代美術振興協会 | APCA

特別協賛：千島土地株式会社

協賛：パリ造幣局 | FMR. LTD、株式会社マイナビ、株式会社 New Auction、Yogibo、一本松海運株式会社、SMBCプライベートウェルス、野村證券株式会社、株式会社安井建築設計事務所、有限会社 ザ・グローブ、株式会社大林組、株式会社竹中工務店、三菱地所株式会社、ダイビル株式会社、UEK株式会社、株式会社静岡銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社ウェアハウス、株式会社宮本工業所、スパスミノエ、株式会社ケイオス、泉海商運株式会社、KITA DESIGN、ホルベイン画材株式会社、パネフリ工業株式会社、平成コミュニティバス株式会社、八光エルアール株式会社(八光カーグループ)、ART PASS、Art Scenes(株式会社TODOROKI)、サントリーホールディングス株式会社、医療法人芳歯会 上橋歯科医院、ART OFFICE OZASA inc.、株式会社サカエ商会、谷間総合会計事務所、株式会社ヴェスティル、FIGO、株式会社ozawa

協力：クリエイティブアイランド中之島実行委員会、カトープレジャーグループ、京阪ホールディングス株式会社

後援：公益財団法人大阪観光局、水都大阪コンソーシアム

パートナーイベント：DELTA、UNKNOWN ASIA

パートナーホテル：三井ガーデンホテル大阪プレミアム、三井ガーデンホテル大阪淀屋橋、ホテルグランヴィア大阪、ホテルヴィスキオ大阪

助成：大阪市助成事業

公式ウェブサイト：<https://www.artosaka.jp>



主催 | 一般社団法人日本現代美術振興協会

代表理事：森裕一 / MORI YU GALLERY

副代表理事：井上佳昭 / Yoshiaki Inoue Gallery

理事：

林聡 / ギャラリーノマル

石田克哉 / MEM

加藤義夫 / 加藤義夫芸術計画室

八木光恵 / アートコートギャラリー

山口孝 / ギャラリーヤマグチ クunstパウ

監事：松尾良一 / TEZUKAYAMA GALLERY

顧問：細川佳洋子 / ギャラリーほそかわ

ART OSAKA 事務局

宮本典子 / ゼネラルマネジャー

室谷智子 / マネジャー

川西遥 / マネジャー

雨安真理子 / マネジャー

小泉智子 / プレス

待夜由衣子・山元裕人 / 写真撮影

お問い合わせ

一般社団法人日本現代美術振興協会 ART OSAKA 事務局 担当：室谷、川西

〒542-0012 大阪市中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B T. 06-6777-8303 / E. info@artosaka.jp